

あま市人権講演会

人権作文発表 13:30~

七宝北中学校

本校は、「基本的人権の尊重を基盤に、人と人とのつながりを大切に、豊かな人権感覚を養い、思いやりに満ちた人間関係の育成」を人権教育のねらいとしています。道徳や各教科、学校祭での縦割りブロック活動、小中連携を深める合同合唱交歓会や弁当会食などの小中交流会、校区の方とともにを行う校区美化活動、地域行事でのボランティア活動などを通して、人権意識を高め、実践的行動力を育てています。

美和中学校

教育活動のあらゆる機会を通して、人権尊重の精神や正義を愛する心、他者の気持ちを思いやる情操豊かな心を育てるとともに、全校体制の下で、一致協力して人権感覚を養うことを人権教育のねらいとしています。

本年度は、他者への思いやりの気持ちを育むことに重点を置き、その活動の中で、他者の気持ちを理解し、時と場、相手に応じた行動を考え、実行することができる生徒の育成を目指しています。

演劇 空白のカルテ

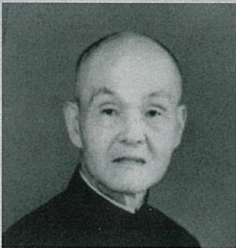
～ハンセン病強制隔離に抗した医師・小笠原 登～

14:00~

劇団 名古屋

1957年に結成された市民劇団。名古屋市熱田区を拠点にして、平和や社会的弱者に寄り添ったテーマを中心にした演劇活動を続けている。2017年に劇団名古屋創立60周年記念公演第2弾「あ・り・が・と」が名古屋市民芸術祭特別賞（演劇部門）を受賞。

ハンセン病は、以前、後遺症が残る、恐ろしい伝染病、遺伝病などという誤った思い込みから不治の病として、患者やその家族までもがいわれなき偏見や差別を受けてきました。現在では、治療方法が確立されており、「らい予防法」も廃止されていますが、社会の中には今なお偏見や差別が残っています。演劇を通して、ハンセン病問題に関するこれまでの歴史に目を向け、差別され続けてきた人たちの悲しみを受け止め、ハンセン病に対する正しい知識と認識を持っていただければと思います。



小笠原 登 (1888~1970年)

強制隔離政策時代の中、京都大学のハンセン病治療を担当していた小笠原登博士は、昭和16（1941）年の「日本らい学会総会」で、らいの発病は、感染よりも体質を重視すべきこと、らいは不治ではないという自分の信念、経験に基づき当時の強制隔離政策に毅然と反対しましたが、国策に反対する邪説として学会から葬り去られました。

しかし、その後も日常の臨床経験に基づく科学的先見性とヒューマニズム精神により、京都大学の特別外来であえて違う病名をつけて隔離せずに治療を行い続け、在宅治療を希望する患者本人は言うまでもなく、その家族等に大きな幸せをもたらしました。

小笠原登博士は、明治21（1888）年あま市甚目寺の真宗大谷派圓周寺の三男として生まれ、当所で少年時代、そして最後の研究生生活を過ごされ、昭和45（1970）年死去されました。

お問い合わせ

あま市 企画財政部 人権推進課

TEL.052-444-0398(直通)

FAX.052-441-8330

